



平成16年
6月15日号

No. 1168

● 毎月5・15・25日発行

広報

かもがわ

- 編集発行・鴨川市役所秘書課
広報広聴係
- 電話・0470(93)7827
- FAX・0470(93)7850
- 鴨川市横渚1450
- 郵便番号・296-8601



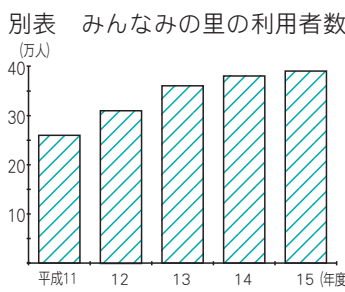
年間を通じてにぎわう農産物直売コーナー



リフレッシュビレッジ事業の拠点

鴨川市総合交流ターミナル

みんなみの里を170万人が利用



「みんなみの里」は、平成十一年三月、都市・農村交流の拠点施設として宮山地区の国道四一〇号沿いにオープン。農産物直売コーナー、郷土料理レストランなどを備え、里山の魅力を来場者に提供してきました。利用者数は左表のように、一年目に二十五万五千人だったものが、二年目には、

朝摘み野菜や季節の体験イベント

里山の“旬”が人気

平成十一年三月にオープンした総合交流ターミナル「みんなみの里」が五周年を迎えました。施設を運営する農林業体験交流協会では、会員の皆さんが農産物直売コーナーや体験実習コーナー、郷土料理レストランを有効活用しながら、地元の新鮮な野菜や果物の販売、季節の体験イベントなどを展開。五年間で延べ百七十万人の利用者を受け入れています。市内では、このほかにも「大山千枚田保存会」や「中山間地域等活性化協議会」などの皆さんが中心となって、棚田オーナー制度の拡大や酒づくりオーナーの募集、田舎暮らしの支援を進めており、これら「リフレッシュビレッジ事業」の進展に伴い、さらに多くの施設利用者が予想されています。



美しい自然を将来に残そう 「森林ボランティア」を募集

市では、多くの皆さんに森の役割について理解を深めてもらい、緑豊かな自然環境を次の世代に残していくこととして、「森林ボランティア」として山林の保全や整備などに自主的に参加していただける方を募集しています。森林は、水を蓄え空気を

すでに三十万人台を超えています。そして、オープン五年目（平成十五年四月から十六年三月）には三十九万人を記録。五年間のトータルでは延べ百七十万人の来場者を受け入れています。目的別では、農産物の購入が利用者全体の三分の二を占め、「新鮮・安全・産地直売」への関心の高さが伺えます。そのほか郷土料理レストランでの食事や土産の購入、体験イベントへの参加の順となっています。入り込み数を見ると、二月の花摘み時期をはじめ、連休のある五月・八月の時期が特に多く、首都圏からのマイカー客や観光バスで訪れる団体客に利用されています。観光客の皆さんは、

直売コーナーで新鮮な農産物を買いたい、郷土料理レストランで自然の恵みを味わうほか、案内所で得た情報をもとに、大山千枚田の見学やイチゴ摘み体験などにも挑戦しています。

施設の安定運営は

「リピーター」客が支え

エコ作物や体験メニューの開発など 地元農家の新しいアイデアに期待

みんなみの里は、地元の皆さんで組織する「農林業体験交流協会」が中心となって運営されています。会員数はオープン当時の二百七十人から三百五十二人に増え、野菜の栽培や体験イベントの指導者など、それぞれ



「地元の皆さんが“先生”に“わらじづくり体験”」

きれいにするなど、人が生きていくうえで欠かすことができないものです。また、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えるという重要な役割も担っています。しかしながら、近年、山林の所有者の高齢化や林業の担い手の減少により、森

林の管理が十分に行えず、荒廃の危機に陥っています。このような中、森林などでの作業を自主的な奉仕作業として行っていくという人たちが全国的に増えています。市内でも、このような考えに賛同する二十人の市民ボランティアの皆さんが、間伐や枝打ちなどに汗を流しながら、市内の森林保全に取り組んでいます。活動では、森林や林業についての研修会も行います。

市役所
1階

気軽にお立ち寄りください ティールーム「かもめ」



友人との待ち合わせや軽食にご利用ください。市役所1階のティールーム「かもめ」は、市心身障害者（児）福祉会が主体となって運営する喫茶コーナー。福祉作業所の訓練生がウエートレスの仕事をしていて、お店のメニューはコーヒーや紅茶、トーストセット、サンドイッチなどです。営業時間は、月曜日から金曜日までの午前10時から午後3時までです（土・日曜日、祝日を除く）。なお、喫茶コーナーの収益金は、障害を持つ方のために役立てられています。

「ユニークな催しが楽しみです」などの声が聞かれ、好評を得ています。

ようと、会員同士が新しいアイデアを持ち寄り、実行に移しています。

市内では、このほかにも「中山間地域等活性化協議会」や「大山千枚田保存会」の皆さんが中心となって、棚田オーナー制度の拡大や酒づくりオーナーの募集、ふるさと回帰支援センターの運営を進めています。これら「リフレッシュビレッジ事業」の進展に伴い、都市住民など施設利用者の増加にも、大きな期待が寄せられています。

ごみ出しルールの確認を

ごみは地区ごとの収集日程に合わせて出しましょう。また、旧式の「燃やせるごみ袋」は、そのままでは収集できません。必ずシール証紙を貼ってから出してください。◎市環境課 (☎7838)

どうぞ、ご参加ください。

- ▼応募資格 自らの責任で判断し、行動できる方
- ▼会費 無料（活動に伴う交通費、昼食代、保険料は参加者側で負担）
- ▼活動場所 市内の山林
- ▼活動内容 木の植栽や下刈り・枝打ち・間伐などの作業のほか、森林や林業についての研修会など
- ▼活動回数 年間十回程度

※申し込みは市農林水産課 (☎7834) へ